

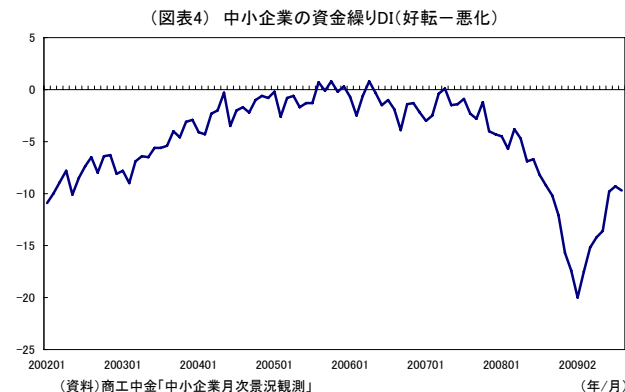
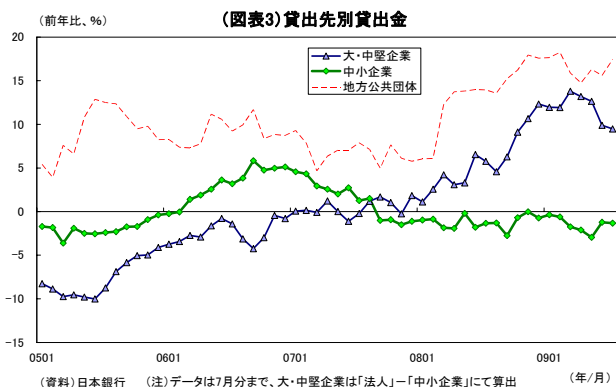
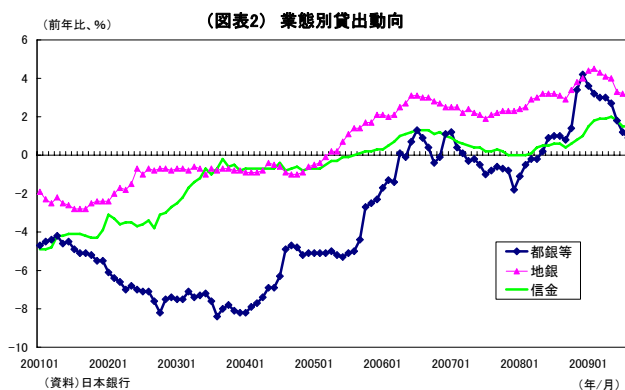
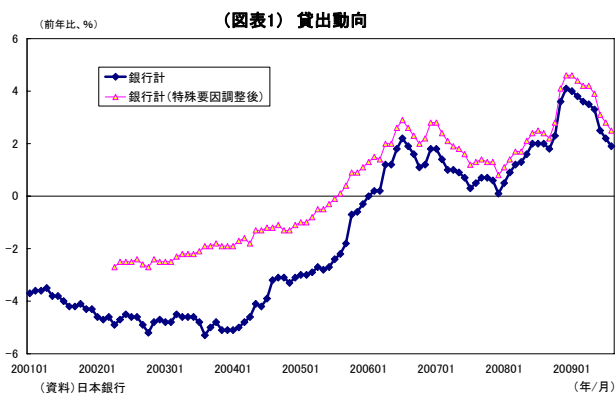
経済・金融 フラッシュ

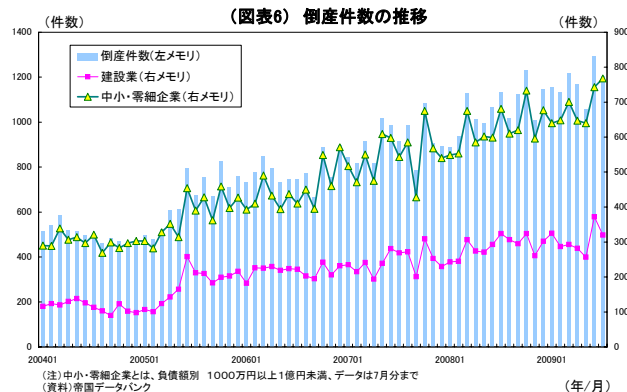
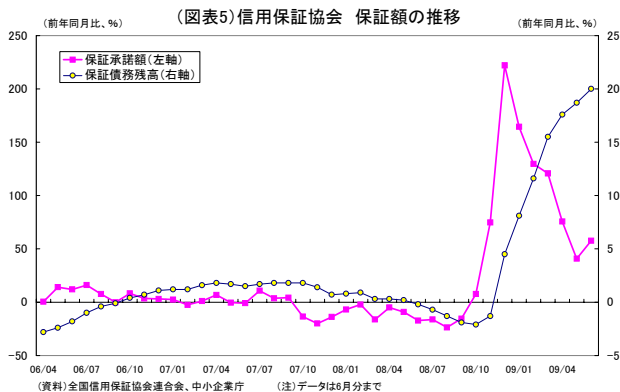
8月マネー動向： 貸出の伸び率縮小は止まらず、11ヶ月ぶりの1%台へ

経済調査部門 副主任研究員 上野 剛志
TEL:03-3512-1870 E-mail: tueno@nli-research.co.jp

1. 貸出動向： 伸び率は11ヶ月ぶりの1%台へ

日銀の貸出・資金吸収動向等によると、8月の銀行総貸出(平残)の伸び率は前年比 1.9%と8ヶ月連続で伸び率が縮小し、2008年9月以来11ヶ月ぶりの1%台となった。景気低迷に伴って資金需要が低迷しているほか、CP・社債市場の機能が回復しており、貸出需要が頭打ちになってきているようだ。業態別ではリーマン・ショック以降に貸出が急増した都銀の低下が引き続き顕著である。(図表1~3)





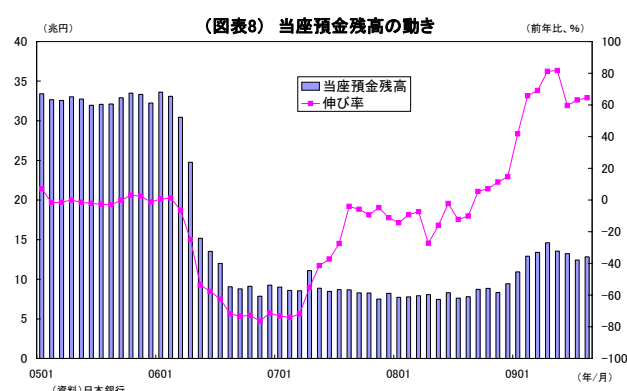
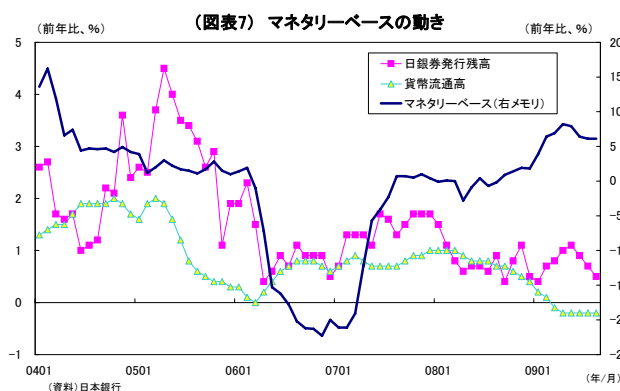
一方、中小企業向け貸出については長期にわたり前年比マイナス圏での推移が続いている。中小企業の資金繰りは依然厳しいとみられ、倒産件数の増加に歯止めがかかっていない。政府による信用保証制度の保証債務残高は積み上がっており、ストックベースの下支え効果は確認できるが、フローベースの新規保証承諾額は足元伸び悩んでいる。景気低迷が長期化する中、中小企業では苦境が続いているとみられ、動向が注目される。(図表4～6)

2. マネタリーベース：12ヶ月連続の前年比プラス

8月のマネタリーベースは、前年同月比6.1%増と前月と同様であったが、12ヶ月連続で前年の水準を上回り、依然として高い伸びが続いている。(図表7)

日銀による短期市場への潤沢な資金供給が続いており、日銀当座預金残高が前年比64.6%増と大幅なプラスを維持していることが要因である。(図表8)

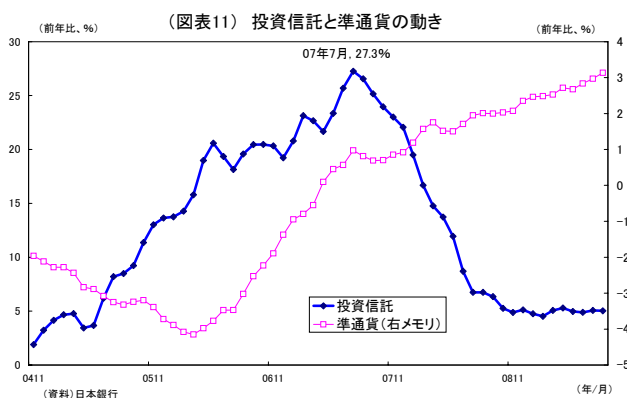
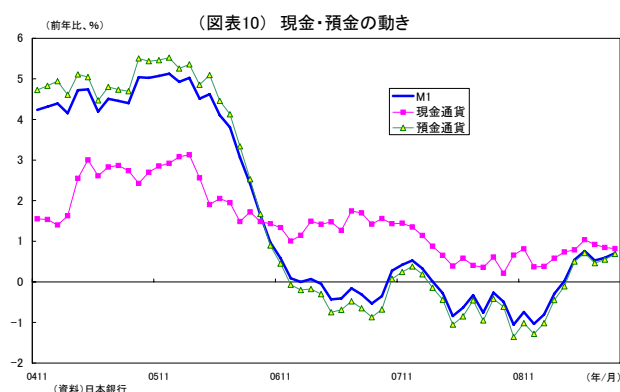
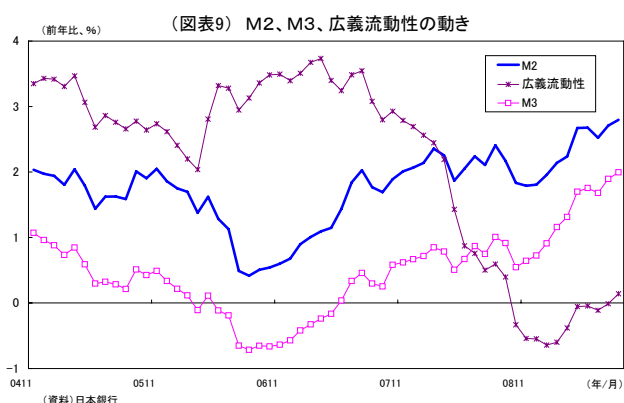
日銀は未だ出口戦略を模索する段階にないとみられることから、当面はマネタリーベースの前年比プラス継続が見込まれる。



3. マネーストック：マネーの伸びは拡大、安全資産への資金流入が続く

通貨供給量の代表的指標である8月のM2（現金、国内銀行などの預金）平均残高は前年比2.8%増、M3（M2にゆうちょ銀など全預金取扱金融機関の預貯金を含む）は同2.0%増と、ともに2ヶ月連続で伸び率が拡大した（図表9）。リスク回避目的による安全資産への資金流入の動きが続いており、定期預金などの準通貨の伸びが拡大を続けている一方、投信の伸び率低迷や外債等の減少からM3にこれらを含めた広義流動性はゼロ近辺での推移が続いている（図表10,11）。

なお、準通貨の伸びは前年比3.1%に達しているが、銀行ではこの負債の増加に対して貸出が伸び悩んでおり、余剰資金が国債投資に向かいやすくなっている。このマネーの動きが、足元の国債市場の良好な受給環境を作り出している一つの要因になっていると見られる。



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。